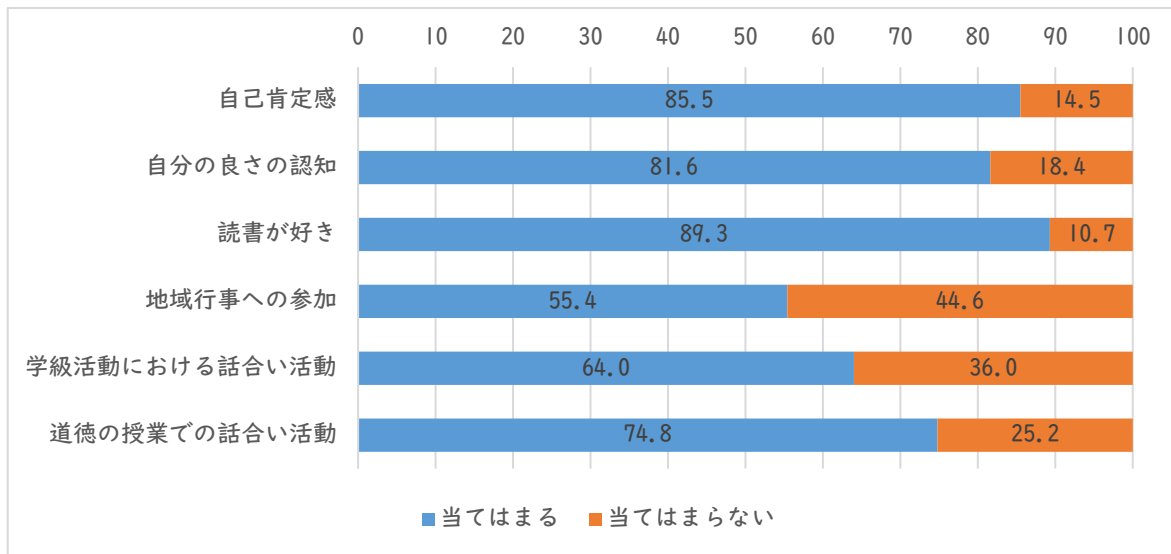


3. 児童質問紙

平成31年度 児童質問紙調査



児童質問紙調査の結果では、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、本校の児童は、85.5%が肯定的な回答をしています。奈良県平均の79.8%や全国平均の81.2%に比べて高く、本校児童は、自己肯定感が高く自分に自信を持っていることが分かります。一方、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問で、肯定的な回答をした児童は、奈良県平均84.3%や全国平均86.1%に対して、本校は、81.6%でした。このことから、教職員は積極的に児童のがんばりを認め、声掛けをしていく必要があると考えます。

次に、「読書は好きですか」の質問に対して、89.3%の児童が「当てはまる」と肯定的な回答をしています。奈良県平均の71.4%、全国平均の75.0%と比べると高い値です。図書館や図書室が身近にあり、利用する児童が多く、読書する機会が多いからではないかと推察します。読書量を増やすことは、語彙力を高める上でも大変重要です。引き続き、朝の読書タイムをはじめ、すべての児童が進んで読書できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

次に、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問では、55.4%の児童が「当てはまる」と回答しました。これは、奈良県平均の64.2%、全国平均の68.0%と比べて約10ポイント低くなっています。地域との交流は、昨年度も課題となっており、小学校が積極的に地域と関わっていきけるような働きかけが必要と考えています。

また、「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問に対する肯定的な回答は、学校が考えていたよりも低い値でした。これを受けて、教職員は夏休みに、県立教育研究所から講師を招聘し、ICT機器の活用に関する研修を受けています。昨年度、各学級に入った大型ディスプレイをはじめ、今年度新たに購入した書画カメラ等のICT機器を活用し、児童にとって分かりやすい授業となるよう、二学期以降取り組んでいきます。

その他に、「学級活動における学級での話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思ひますか」、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思ひますか」の質問では、「当てはまらない」という否定的な回答がそれぞれ35.0%、25.0%にのびました。授業の中で意識的に話し合い活動を取り入れることで、次期学習指導要領で重要視されている主体的・対話的で深い学びが実現できるように努めたいと思ひます。